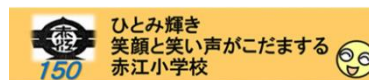


10年後の自分への手紙（校長 難波真章）



開校150周年を記念して、「10年後の自分に手紙を書こうプロジェクト」を行うことにしました。これは、10年後の自分へあてた手紙を書き、10年後に開封して読むという企画です。「いまの自分が感じている気持ちや考えていること」「達成したい目標」「かなえない夢」など、一人一人が未来の自分に向けて手紙を書き、令和6年1月に保管ボックスに入れました。

いよいよ10年経ち、保管ボックスが開けられ10年前に書いた自分の手紙を開封する時が来ました。みなさんで当時（令和5年度）の赤江小学校や自分の姿をふりかえってみてください。



開校150年を迎えて（記念コラムより）

明治6年5月23日に開校した赤江小学校は、開校150周年を迎えました。長きにわたって赤江小学校を支えてくださっている赤江地区の皆様は心より感謝申し上げます。

本校では、開校150年という大きな節目に、子どもたちに赤江小に対する誇りと愛着、多くの皆様への感謝の気持ちを育てていきたいと考え、児童会の実行委員会の協力と、加藤聡士実行委員長をはじめとするPTA運営委員会母体とした開校150年記念実行委員会のお力により、2ヶ年にわたり様々な記念事業に取り組んで参りました。

10月28日（土）の記念花火大会には、大変多くの方におかけいただきました。子どもたちは、夜空に広がる350発の花火を見て赤江小学校に対する思いを深めてくれたことと思います。開校150年を迎えた小学校は日本中に数多あれども、地域、保護者、学校が一丸となって花火大会を成功させた例は非常に稀であると思います。皆様で祝し盛り上げていただきありがたく思いますし、誇らしく、心強くもあります。あらためて地域に支えられている学校であることを強く感じました。

50年前に編纂された「赤江教育百年誌」の中に、長きにわたり赤江教育を支え発展させたものとして三つのことがあげられています。第一は、「一生懸命勉学に励む子どもと向学心。」第二は、「子どもの成長を願う親心とその集団。」第三は、「赤江小学校を『うちの学校』と呼び教育環境整備に努力された地区民の郷土愛」です。この三つは、「一生けん命学ぶ子ども」「子どものためにと熱心で協力的なPTA」「応援してくださる地域の皆様」として脈々と受け継がれ、歴史ある赤江小教育が発展してきました。赤江小学校の財産であると思っています。これからも赤江小学校をご支援くださいますようお願い申し上げます。（校長 難波真章）

開校200年に向けて「其の根を培う」（記念コラムより）



今の小学生が還暦近くになる頃、赤江小は開校200年を迎えます。

激しく変化し予測不能と言われる現代社会。50年後はどのようなになっているのでしょうか。きっと大きく変わっていることと思います。

赤江小学校の玄関には、「其の根を培う」と書かれた額が掲げられています。この額は、今からおおよそ140年前の明治14年に、当時の堀実校長先生がお書きになったものです。校舎が変わってもこの額は掲げられ続け、今の校舎が完成した際、木造校舎の玄関から移されました。この言葉には、「赤江に育つ子どもたちに、自分の根となるところをしっかりと培い、強くたくましく生きてほしい」という願望が込められていると思っています。

根をしっかりと培えば、どのように社会が変化しようとも自らの力を発揮することができます。赤江小学校の永遠の校是として伝えられているこの言葉は、明治、大正、昭和、平成、令和へと時代が移ろっても変わらぬ光を放ち続けています。これからも大事にしていきたい言葉です。

この先も赤江の子どもたちが自らの根をしっかりと培い、思う存分、社会で活躍することを、そして、赤江小学校が地域とともにあり続け、開校200年を迎えることを願っています。（校長 難波真章）

